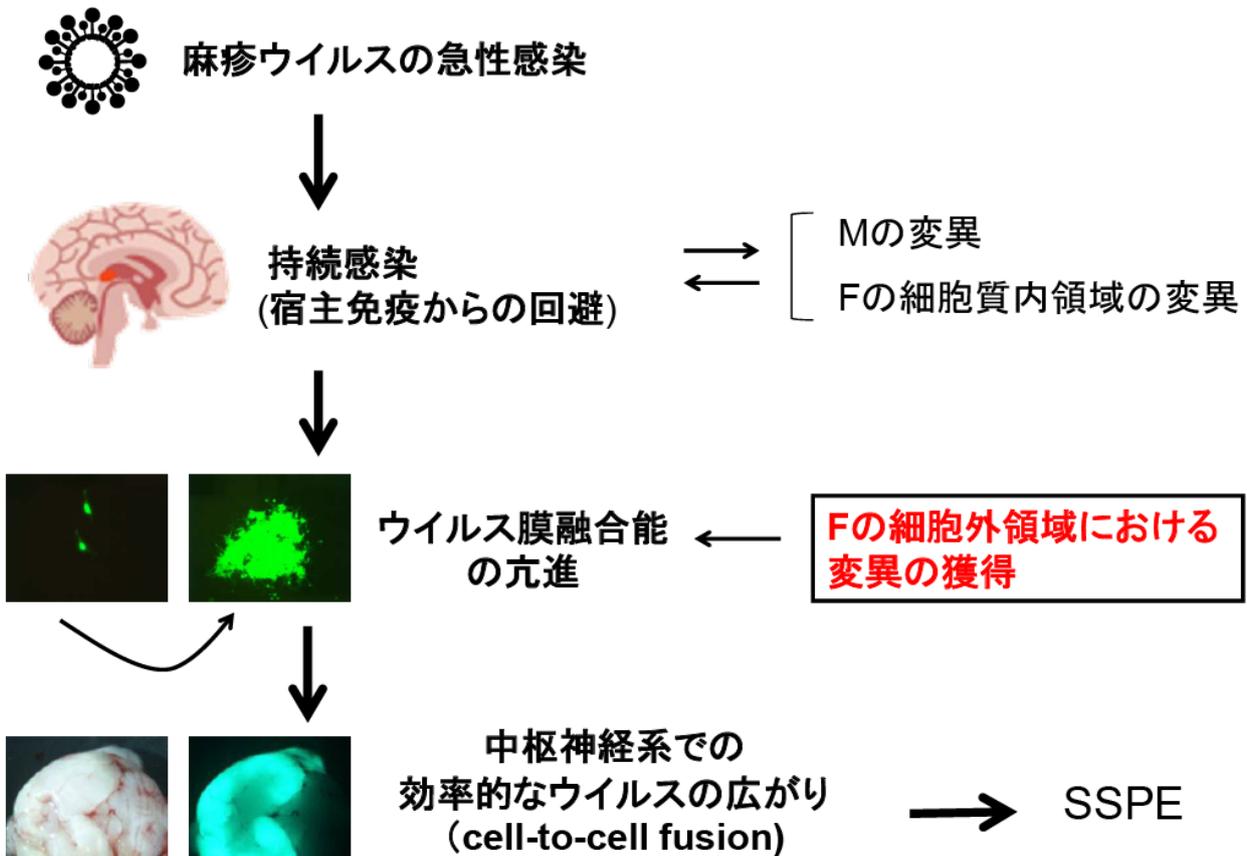


麻疹ウイルスによるSSPE発症機構

研究分担者:九州大学大学院医学研究院 ウイルス学 柳 雄介

SSPEの多段階発症モデル



解説

1. 麻疹ウイルスがCNSで持続感染してSSPEを起こす機構はよく分かっていない。
2. これまで、M蛋白質の欠損によりウイルス粒子が形成されないことがSSPE発症に重要であると考えられてきた。
3. われわれの研究から、M蛋白質の欠損だけでなく、F蛋白質の膜融合能の亢進が、神経細胞のように受容体を発現していない細胞におけるウイルスの広がり重要であることが明らかになった。
4. 一般の麻疹ウイルス株と異なり、SSPE分離株はF遺伝子に多くの変異が認められることから、F蛋白質の変化がSSPE発症に重要であることが予想される。